

第3編 学校別研究

【目次】

沼田小学校	49
沼田東小学校	53
沼田北小学校	57
升形小学校	61
利南東小学校	65
池田小学校	69
薄根小学校	73
川田小学校	77
白沢小学校	81
利根小学校	85
多那小学校	89
沼田中学校	93
沼田南中学校	97
沼田西中学校	101
沼田東中学校	105
池田中学校	109
薄根中学校	113
白沢中学校	117
利根中学校	121
多那中学校	125
利南幼稚園	129
薄根幼稚園	133

沼田小学校

所在地 〒378-0042 沼田市西倉内町746番地
電話番号 0278-22-2063 FAX 22-0780
校長名 小野里 慶博

I 学校の経営

1 学校の教育目標・経営方針

- 『知』よく学ぶ子…習得した知識・技能を活用しながら、課題に対して深く考える力を育成する
- 『徳』助け合う子…自他に温かい言葉をかけながら、さまざまなことに積極的に挑戦することを通して、達成感や満足感を味わわせ、児童の自己肯定感を醸成する。
- 『体』元気な子…体力の向上、生活習慣の定着を図り、健康・安全に留意しながら生活する態度を育成する。

2 経営方針

- (1) 全教職員が主体的に学校経営に参画したくなるような経営を行う <チーム沼小>
- (2) 安心・安全な学習環境の整備と安全教育の充実をめざす <安心・安全な学校>
- (3) 「よく学ぶ子」「助け合う子」「元気な子」を育てるために、非認知能力の育成を意識的、意図的に行う <非認知能力の育成>
- (4) 家庭・地域との連携・協力の強化を図る <コミュニティ・スクールの推進>

3 本年度の重点施策

- (1) 「チーム沼小」の強化に向けて
 - ① **2つのキーワード(自律・共育)と3つの基本姿勢(創造・協働・意思疎通)**を基にした学校経営
 - ② 経営方針の明確化と各主任・担当をリーダーとした組織的・計画的・継続的な取組
 - ③ 学校課題の共有とすべての教職員が互いに関わり合って課題を解決する意識の向上
 - ④ 児童の成長と教職員の働きがいも向上を目指した教育課程の見直しと働き改革の推進
- (2) 安心・安全な学校づくりに向けて
 - ① 施設・設備の定期点検をもとにした校舎内外の整備
 - ② 危機管理マニュアルの実効性の検証と計画的な危険予測・回避能力の育成

【セイフティ沼田】

 - ③ 児童一人一人の健康に関する情報(既往症、アレルギー等)の共有と適切な指導・支援
 - ④ 安心・安全な学校づくりに向けた保護者や地域との連携・協力

【セイフティ沼田】
- (3) 非認知能力の育成に向けて
 - ① 主任やC o、担当をリーダーとした組織的・計画的な取組の推進

【わくわくスクール沼田】 【ぬまた未来創造学】
【家で本を読みましよう】 【児童生徒生命を守り、育てる教育】
【沼田市SNSルール】 【セイフティ沼田】 【幼小中連携】

 - ② 非認知能力の基盤となる「自己肯定感」を高めるための「共有する」「任せる」「認める」活動の充実

【わくわくスクール沼田】 【ぬまた未来創造学】
- (4) コミュニティ・スクールの推進に向けて
 - ① 学校運営協議委員や地域学校協働活動推進員と連携した家庭や地域との協働による学校づくりの推進
 - ② 生活科や総合的な学習の時間等における地域教材、講師となる地域人財の発掘

【ぬまた未来創造学】

 - ③ 近隣連携5校(沼田南中、沼田西中、升形小、川田小、沼田小)の連携強化と隣接幼・保・ことの連携強化

【幼小中連携】

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

主題 主体的に取り組む子の育成
副主題 ～魅力的な問いから始まる児童に任せる授業づくりの工夫を通して～

児童の実態との関わり

・昨年度までの研修により、他者と考えを共有したり、比較したりしながら主体的に考えることができる児童が増えてきている。しかし、児童によっては、他者の考えに触れて、自分の考えを深めたり、広めたりして自分のものとするのはまだ十分とは言えない。他者から学んだり、それをもとに学びを調整したりする力の育成が必要である。

指導の在り方との関わり

・「自律した学習者」の育成に向けて、児童が主体的に学べる授業に質的転換を図ったことで、学力が向上した。
・児童の実態に応じて、様々な授業方法を選びながら児童に任せる時間と場面を意図的に設けていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】 問いの解決に向け、自分の考えをもち取り組む児童
- 【中学年】 問いの解決に向け、根拠をもとに自分の考えをもち取り組む児童
- 【高学年】 問いの解決に向け、よりよい学習方法を選択し取り組む児童
- 【特別支援】 問いの解決に向け、個に応じた提案の中から自己決定して取り組む児童

(2) 共通実践する手立て

- ・「魅力的な問い」の設定により児童が主体的に課題を追求できるようにする。「魅力的な問い」とは、クエスチョン型の問いや児童が解決の見通しをもったり、解決の方法を決めたりできる問いである。単元や単位時間の導入場面では、他者と比較する問いや単元を通して同じ問いなど様々な工夫し、児童が深い学びへと結びつくような問いを追究していく。
- ・「児童に任せる授業」にするためには、学習の進め方やワークシート、ノートの取り方、読み取りのポイントなどを示し、児童の学びの素地を作る。「聞くこと」を重視することで、考えの相違点に気づいたり、自己肯定感を高め、協働の学びへとつなげていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「魅力的な問い」の設定により、児童が主体的に叙述を根拠に語り合う姿が見られた。
- ・「任せる」時間を設けたことで、児童が主体的に学習方法を選び、めあての達成に向かう姿が見られた。

○課題

- ・「任せる」授業を推進していくためにも、基盤である学級経営を大切に教育活動を進めていく。
- ・導入を工夫し、子どもと一緒に「魅力的な問い」が考えられるように、環境構成を工夫し、問いの解決に向け、主体的に取り組む子の育成を図る。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・より「魅力的な問い」を設定できるように、日々の教材研究を行うとともに児童の実態を把握していく。
- ・実践後の成果を共有し、各自の取組に生かしていくようにする。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 ※資質向上研修
経過報告【〇研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）】

月日	研修計画【内容】	経過報告【〇研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）】
4.9	【全体会①】	〇主題、副主題、研修組織、研修計画、目指す児童像の検討・確認
4.15	【推進委員会①】	・研修テーマの共通理解
4.21	【全体会②】 ・研修計画の検討	〇資質向上のための教材研究のやり方確認 ・目指す児童像の共通理解
5.7	【全体会③】 ・研修計画の修正、確認	〇研修計画の確認 〇目指す児童像の確認 〇A 訪問の確認
5.14	5年1組 体育 「陸上競技・ハードル走」 授 原教諭	〇「魅力的な問い」「児童に任せた場面」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする。 ・ハードルの跳び方のポイントを示しながら練習の時間を進めていったことで、児童同士がアドバイスをしながら技能の定着をしようとできていた。 ・振り返りの場面において、班ごとに学び合いで気づいたことなど発表してもよかった。
5.26	【全体会④】 ・資質向上研修	〇研修への指導助言等共通理解 〇研究の内容や方法等の検討、指導案形式の確認
6.12	ひまわり2組 国語 「まいごのかぎ」 授 狩野教諭	・叙述に着目させることで児童が叙述から考えようとする姿勢が見られたのがよかった。 ・ノートの取り方を迷っている児童がいたので、考えをより整理するためにも板書のような4分割形式のプリントを用意してもよかった。
6.16	【全体会⑤】	〇一人一授業の先行授業検討
6.23	【全体会⑥】	〇一人一授業の先行授業検討
6.27	指 指導主事訪問 A	〇校内研修の方向性を確認、改善 ・魅力的な問いの設定を引き続き具体化していく。(試したくなる問い、聞きたくなる問い) ・任せる授業にしていくためには学習計画を自己決定させていくことが 大事。児童とともに作る時間も必要。 ・児童の実態をふまえて環境構成をより緻密に行う必要がある。
7.8	たんぼぼ1組 自立 「ペーパータワー」 授 真庭教諭	・魅力的な問いの立て方として、活動に対する目標を子どもたち自身で決めたことが、効果的であった。 ・最初に立てた個人の目標に焦点を当てた振り返りを行うことで、次時の活動への動機付けを高めることができた。
7.11	5年1組 音楽 「いろいろな音のひびきを味わおう」 授 佐々木教諭	・「楽器に合うリズム」「班のアンサンブル作り」という視点とゴールが明確なため、児童同士で試したり聴き合ったりして班ごとのアンサンブル作りを進めることができた。 ・説明や確認は簡潔に行い、子どもに任せる時間を十分とれるように配慮する。
8.26	【推進委員会②】	〇研修計画の再確認
9.1	【全体会⑦】	〇研修の成果と課題を振り返り、今後の方向性を確認する。
9.2	ひまわり1組 自立 「なかよく宝さがしをしよう」 授 高橋教諭	・子ども達がイメージしやすい興味をもちやすい問いかけであった。 ・問いに対するふり返りをもっとしっかりし、成就感を高められるとよかった。
9.22	【全体会⑧】 B 訪問指導案検討会	〇授業者の思いやねらいを確認し、研修のねらいを達成するための手立 てとなるように検討を行う。
10.3	4年1組 国語 「ごんぎつね」 授 森下教諭	・前時までのふり返りから問いへもっていったことで意欲的に考えていた。・問いの主語の捉え方が違うことで迷う児童もいた。段階を追った教師の見取り方、その際の個別指導の仕方を研修していく必要があると感じた。
10.3	6年1組 国語 「やまなし」 授 倉澤教諭	・賢治の生き方や考え方を学習した上で、「やまなし」を読み取るための各自が考えた問いを設定できた。 ・問いごとに意図的指名を行うことで考えを広げられるようにする。
10.15	4年1組 理科 「自然の中の水のすがた」 授 登坂教諭	・前時の学習内容から生まれた疑問を取り上げたことで、意欲的に取り組める問いになった。考えをもたせる指導に時間をかけたため、考えを交流し深める時間が十分にとれなかったので、前時の終末に問いを捉えておくことなどで、それぞれの時間を確保する。
10.17	4年2組 国語 「ごんぎつね」 授 七五三木教諭	・A か B かという問いの形にしたことで、自分と違う意見を一生懸命聞き、意見を受け入れようとする姿が見られた。一方で、授業での発言などから問いを考え直すことも必要だと感じた。
10.22	6年1組 外国語 「Let's see the world」 授 萩原教諭	・児童は、それぞれが考え、班での交流もよくできていた。児童の振り返りでも発表に向けて意欲的な意見が多く見られた。活動が大きく二つに分かれてしまい、じっくり取り組む余裕をもてなかったり、ポイントが曖昧になったりして、話し合いが深まりづらい様子も見られた。
10.24	6年1組 社会 「ヨーロッパ人の来航」 授 細谷教諭	・「世界とのつながり」の資料から当時のヨーロッパの情勢や日本にヨーロッパ人がやってきた理由などを考えさせようという意図で発問をしたが、児童にとって理解が浅くなってしまった。しかし南蛮貿易が日本に新しい文化をもたらせ、大きな影響を与えたことは捉えられた。
10.27	【全体会⑨】	〇これまでの実践をB 訪問へつなげる。
10.31	指 幼保こ小連携教育推進事業	〇幼保こ小連携の教育の推進を図る。

10.31	1年1組 道徳 「だれとでもなかよく」 授 見城教諭	・提示した問いについて振り返る場面で、思考が深まった児童の姿が見られた。 ・中心発問について考える時間を十分とれたことで、児童は自分の考えをもち、ペープサートを使ってペアで伝え合うことができた。
10.31	1年2組 国語 「じどう車くらべ」 授 関口教諭	・これまで学んできた文章の続きを書くという学習活動に意欲的に取り組むことができた。書くための材料を板書してヒントとした一方で、児童それぞれのペースが異なり、全員が課題を達成するには少し時間が足りなかった。
11.17	【全体会⑩】 ・研修の確認・修正	○これまでの校内研修の成果・課題を明らかにし、これからの研修の方 向性を確認する。
11.20	ひまわり4組 道徳 「ヒキガエルとロバ」 授 林教諭	・場面ごとに発問しながら、心情の変化や登場人物の発言・行動を考えさせることができた。登場人物の気持ちに寄り添えるように役割演技をさせて、思考を深めることができた。一方で問いが2つになってしまったので、どちらに重きをおいて考えさせるのか、絞れたらよかった。
11.27	指 指導主事訪問 B 5年2組 国語 「たずねびと」 授 川端教諭	○校内研修の成果を確認 ・問いに対して考える視点を与えたことで、児童は言葉に注目しながら根拠のある意見を書いていた。また、それを基に活発な交流ができていた。意見交流や集計をより行いやすくなるよう、指示の出し方やICTの使い方を精査する必要がある。
11.28	2年1組 国語 「みきのたからもの」 授 石橋教諭	・児童の宝物を聞いたことで、お話に興味をもて、「何を勉強していこうか？」の声掛けで、今後の学習へのわくわく感をもてた。感想を書く観点を示したことで、児童が書きやすかった。 ・交流する場面で型を提示したことは有効だったが、話し合う経験を積み重ねる必要がある。
12.3	3年1組 国語 「三年とうげ」 授 高坂教諭	・既習事項を一目で振り返れるよう掲示物を工夫したことで、一人一人がしっかりと自分の考えをもち、意欲的に交流活動に取り組むことができた。一方で、交流活動の際のメモのとり方については、メモをとることが目的になってしまわないよう、声かけを工夫する必要がある。
12.9	2年2組 国語 「みきのたからもの」 授 大島教諭	教科書の叙述に基づきながら自分の意見をもつことができた。交流では、必要感にかられて友達に質問したり、自分の考えを見直したりする姿が見られた。一方で、正解がない問いだからこそ、単元のもつ魅力や前時までの学習を踏まえ、振り返りの方向性を考えておく必要がある。
12.11	3年2組 国語 「三年とうげ」 授 村上教諭	・掲示物や教材があったことで児童が安心して活動し、全員が理由を含めた自分の意見をもつことができた。一方で、「めあて・振り返り」と「主活動」の内容一致、コミュニケーション上の態度支援の向上、平等な意見交流の機会提供に向けた授業改善を行う必要がある。
12.16	言語通級 国語 「夕・テ・ト音を楽に出そう」授 佐藤教諭	・音を出すというポイントを具体的に示したことで、思考が深まり、構音練習に主体的に取り組んだり、よい出し方かできているか確かめたりする児童の姿が見られた。新しい構音方法を習得する時間だったため、教師主導で校内研修のテーマとうまく合わせられなかった。
1.16	5年1組 外国語 「U7 Welcome to Japan」 授 小熊教諭	・児童が興味をもちやすい活動を設定したことで、積極的に活動に取り組む姿が見られた。前時からの積み上げもあり、表現に自信をもって会話する姿も見られた。 ・活動での指示がわかりにくかった点があった。より伝わりやすい発問が必要だと感じた。
1.26	【全体会⑪】・研修のまとめ	○成果と課題の検討、来年度の方向性の確認
3.9	【全体会⑫】・来年度の研修計画	○来年度の計画の検討

※資質向上研修

	区 分	講 師	内 容
4.10	保健に関する研修	養護教諭 松井 純子	・食物アレルギー対応、エピペンの使い方
6.10	特別支援教育に関する研修	スクールカウンセラー 原澤 幾子	・事例検討会
7.23	学級経営に関する研修	外部講師 佐藤 順子	・人との関わり方
プール指導前	緊急時の対応についての研修	養護教諭 松井 純子	・心肺蘇生法 ・AEDの使い方
10.23	特別支援教育に関する研修	群大客員教授 峯岸 幸弘	・発達障害のある子どもたちとの付き合い方
11.17	特別支援教育に関する研修	群大客員教授 峯岸 幸弘	・グレーゾーンの子どものいる学級経営

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	小野里慶博	教 諭	関口 真琴	用 務 員	樋口 元二
教 頭	反町真由美	〃	七五三木雪乃	生活相談員	小林 昌子
教 諭	見城 由香	〃	大島 由依	学校教育支援員	金子 弘
〃	佐藤 真理	〃	川端 真倫	〃	中島美保子
〃	高橋富士夫	〃	村上なの花	〃	佐藤 紗希
〃	石橋理恵子	〃	林 美里	スクールサポートスタッフ	外山 恵利
〃	倉澤 泰子	〃	登坂 一彦	〃	斎藤 理恵
〃	森下 由佳	〃	細谷 龍男	A L T	グレゴリー・
〃	小熊 一洋	〃	片野日佳梨	〃	パウワー
〃	萩原 一貴	養護教諭	松井 純子	初任研後補充非常勤講師	石田 直行
〃	高坂 拓歩	事務職員	石山 朝香	スクールカウンセラー	原澤 幾子
〃	原 将吾				

沼田東小学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801-1
電話番号 0278-23-1118 FAX 22-0781
校長名 内藤 麗子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) **基本目標** 心豊かで、進んで学び、生きる力みなぎる沼東小っ子の育成
(2) **具体目標** ひ：人の気持ちを感じ取り、思いやりのある行動をする子
が：学力向上に向け、よく聴き、考え、自分の言葉で伝え合う子
し：心身ともに健康で、ねばり強くがんばる子

2 経営方針

(1) 学校経営目標

◎安心・安全な学校環境の中で全教職員が協働的・創造的に教育活動に取り組み、「心豊かで、進んで学び、生きる力みなぎる沼東小っ子の育成」の具現化を図る。

(2) 目指す学校像

- ・温かな人間関係と、活気と秩序のある学校生活に必要な規律を形成する学校
- ・確かな学力の育成に向けて、授業改善を積み重ねる学校
- ・安心・安全な学校環境と、児童の心身の健康を守り抜く学校
- ・教職員が同僚性を発揮し合い、心身の健康を保持して働く学校
- ・家庭や地域と連携・協働して、児童の成長を支える学校

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・「報告・連絡・相談・記録」を日常化して組織力と同僚性を高めるとともに、各分掌主任に、適切に「任せる」ことを通して、教職員一人一人の自己効力感と資質の向上を図る。
- ・学習指導、生徒指導の両面において、学年ブロックの連携と相互支援を推進する。
- ・望ましい働き方と服務規律の確保について教職員の共通認識を深め、よりよい教育活動を持続する。

(2) 豊かな心の育成

- ・人権教育を基盤として自他のよさを認める心を育むとともに、安心して学校生活を送るために必要な支持的風土を醸成する。【命を守り育てる教育】
- ・生徒指導4つの視点を基に、発達支持的指導と課題予防的指導を意図的・計画的に行う。
- ・生活五原則(挨拶・返事・整理整頓・無言清掃・時間を守る)を示し、きまりの理由を児童が自分事として考えることを通して、主体的に遵守できるようにする。

(3) 確かな学力の育成

- ・児童主体(自己決定、対話・交流、試行錯誤)の授業を行い、学ぶ楽しさを味わいながら資質・能力を身に付けられるようにする。【わくわくスクール沼田】
- ・教科担任制や交換授業を推進して授業の質を高めるとともに、個々の学習状況を多面的に見取り、指導の改善に役立てる。
- ・授業と家庭学習の連動や読書の習慣化、漢字・算数コンテストの計画的な実施を通して、自主的な取組と基礎基本の定着を図る。【家族で本を読みましょう】

(4) 健やかな体の育成

- ・教科体育の授業において運動量を確保することや、体育的行事に目標をもって取り組ませることを通して、運動技能と運動習慣の定着を図る。
- ・家庭と連携した健康的な生活習慣の定着に向けて、学校保健委員会を機能させるとともに、ノーメディアチャレンジ等の啓発活動を計画的に行う。【沼田市 SNS ルール】

(5) 特別支援教育の充実

- ・個々の特性に応じた支援を全教職員で共通実践するとともに、保護者や専門機関と緊密に連携する。
- ・沼田特別支援学校との交流を通して、人々の多様な在り方を認め合う実践的態度を育てる。

(6) 地域とともにある学校づくり

- ・地域の教育資源を活用して探究的に学ぶ学習を推進し、ふるさとへの愛着を深める。【ぬまた未来創造学】
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、互惠性のある取組とする。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自他を尊重し、学び合い高め合える児童の育成

副主題 ～気づきや発見を自分の言葉で説明できる個別追究の工夫を通して～

児童の実態との関わり

- ・「話し方・聴き方名人」「つながるハンドサイン」を活用することで、対話的な活動において、安心して自信をもって発信できている。
- ・問いかけや問い返しを精選することを通して、児童が互いのよさに気付いたり考えを深めたりできるようになってきているが、自分の考えを明確にもち表現することが十分ではない。

指導の在り方との関わり

- ・ねらいを達成するために、効果的で子どもが解きたくするような課題の工夫をしたり、対話的な活動の後に児童が試行錯誤したり、自己決定したりする場面を設定する必要がある。
- ・さらに協働的な学びを充実させるために、個別追究の充実を図る必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

自分の考えをもち、友達との交流を通して、お互いに理解し合い、認め合いながら自分の考えを深めることができる児童を育成する。

(低学年) 自分の考えを伝え、友達の考えを知り、やってみようとする児童

(中学年) 自分の考えを説明し、友達の考えと比較して、自分の考えを広げようとする児童

(高学年) 根拠をもって自分の言葉で説明し、友達の考えと比較し関連付けて、考えを深めようとする児童

(2) 共通実践する手立て

- ・個別追究の場において、考えが広がる課題を見極めて設定し、何を考えさせるかを明確にして課題を提示するとともに、児童の実態に応じた見通しのもとせ方を工夫する。
- ・個別追究の場において自らの考えをもつ時間と考えをまとめる時間を統一した問題解決型の学習過程を設定する。(東小スタンダード)

3 研修計画・経過報告〈次頁〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・児童の興味・関心を高める課題提示により、児童の課題を解決する必要感が高まり、意欲を持続させながら個別追究に取り組む姿が見られた。
- ・個別追究の場において、考えさせることを明確にして課題を提示し、自分の考えをもつことを積み上げたことにより、自ら考える児童の姿が見られ、気づきや発見等を学年に応じた方法で表現することができるようになってきた。
- ・個別追究の場で自分の考えをもってから交流することを積み重ねることにより、児童がその意義を実感しながら考えを深めることができるようになってきた。

○課題

- ・個別追究での自分の考えと比べながら対話・交流をすることで、友達の考えのよさには気付いているが、それを基に試行錯誤したり、自己決定して取り組んだりする場を設定することに困難がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・一単位時間と単元全体を見通して場を設定していくとともに、試行錯誤や自己決定を促す支援を工夫していく必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [〇研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 21	全体会① ・研修内容の共通理解 ・目指す児童像の検討	〇研修主題、研修内容・方法の検討 ・東小学校スタンダードと目指す児童像を研修の方向性と一致させる。
5. 26	全体会② ・一人一授業の計画確認 ・研修計画について共通理解	〇一人一授業について、課題の工夫について ・各教科に合わせた課題のもたせ方を工夫し、授業実践に取り入れていく。
5. 27	授 言語指導 小川教諭 「ゆっくりはっきり言ってみよう」	〇録画・再生機能を活用した個別追究の時間の有効性について ・録画・再生機能を活用し、自分の状況を確認することは発声に主体的に取り組ませる上で有効である。
6. 9	全体会③ ・メンタルヘルス研修	〇生物学から考える「こころの健康」 ・職場の健康づくりを目的として講演を聴き意見交流を行った。
6. 16	授 指導主事訪問 A	〇研修の方向性について ・各教科における個別追究の方法について考えていく必要がある。
7. 1	授 3年理科 戸部教諭 「風とゴムのはたらき」	〇疑問を生み出す課題の工夫の有効性について ・疑問を生み出す課題を工夫して提示することは、自分の考えを追究させていく上で有効である。
7. 9	授 3年算数 栗原教諭 「ぼうグラフ」	〇実態に応じた見通しの有効性について ・考えるべきことに着目できるような見通しをもたせることは、自分の考えを追究させていく上で有効である。
7. 18	全体会④	〇一学期の一人一授業のまとめ ・個別追究の時間を工夫する手立てを継続して、一単位時間の授業の中に位置付けていく必要がある。
9. 1	全体会⑤	〇実態調査の分析と指導について ・児童が自分の学習状況を捉えて、考えを追究することができるようにする必要がある。
10. 8	全体会⑥ 指 B訪問指導案検討	〇個別追究の場の目的と手立てについて ・単元構成を工夫して個別追究の場を設定し、言語活動と音楽活動の往還ができるように考える必要がある。
10. 15	全体会⑦ 指 B訪問指導案検討	〇協働的な学びのための対話・交流の場の設定について ・個別追究した考えの表出のさせ方を考え、児童が互いに考えを行き交わしながら思考が深まるような対話・交流の場にしていく必要がある。
10. 27	全体会⑧ 指 B訪問指導案検討(最終)	〇協働的な学びのための対話・交流の場の充実について ・児童の発言を促す場づくりとともに、教師が適切な問いかけをすることで思考が深まるようにする必要がある。
11. 4	授 6年社会 土井教諭 「戦国の世から天下統一へ」	〇既習事項を生かした個別追究の有効性について ・既習事項を想起できるような工夫をして個別追究をさせることは、児童の多様な考えを引き出す上で有効である。
11. 7	授 3年算数 金子教諭 「小数」	〇考える方法の見通しをもたせることの有効性について ・考える方法の例を提示し見通しをもたせることは、自分の考えを表現しやすくする上で重要である。
11. 10	授 特支自立活動 片野教諭 「息を合わせて協力しよう」	〇活動を生かした個別追究の有効性について ・活動することで得た気付きを基にして、考えを追究することは、理解を深める上で有効である。
11. 11	授 特支国語 小田橋教諭 「秋の楽しみ」	〇自分の考えをもつための教具の工夫の有効性について ・考えるヒントとして、掲示物やタブレットでの検索を用いることは、見通しをもって考える上で有効である。
11. 11	授 6年道徳科 外山教諭 「手品師」	〇考えをもつための視覚的な工夫の有効性について ・状況や場面を理解できるような視覚的な工夫をすることは、自分の考えをもつ上で有効である。
11. 12	授 5年算数 吉本教諭 「図形の面積」	〇多様な考えを引き出す課題設定の有効性について ・考え方が幾通りも出る課題を提示することは、対話・交流を活性化させ、考えを深めさせる上で有効である。
11. 17	授 1年算数 登坂教諭	〇考えの表現方法を選択させることの有効性について

	「ひきざん」	・考えの表現方法を選択させ、できたかを自己評価させることは、表現を高める上で有効である。
11.19	授 指導主事訪問B 5年音楽 星野教諭 「詩と音楽との関わりを味わおう」	○個別追究の場で視点や表現方法を選択させることの有効性について (成果) ・課題を追究するときに自分が追究したいものを選ぶ、調べ方やまとめ方を選ぶことは個別最適な学びにつなげる上で有効である。 ・前時までに自分の考えをもつ個別追究の時間を取ったことは交流を深め、視点が違うそれぞれの考えを結び付ける上で有効である。 (課題) ・グループ交流を通して考えを発展させていくのが難しいときは、全体の交流に変えて広がりをもたせるようにする必要がある。
11.26	授 特支道徳科 佐藤教諭 「すこしぐらい」	○考えをもつための場面理解の工夫の有効性について ・場面を対比しながら考えさせることは、場面を理解させ考えをもたせる上で有効である。
12.2	授 特支道徳科 小野里教諭 「生きることをあきらめない」	○考えを引き出すための発問の工夫の有効性について ・主題を軸にして発問を絞り込むことは、児童が考えをもち、次第に考えを深めていく上で有効である。
12.4	授 2年算数 佐藤教諭 「九九のひょう」	○表現を促すためのワークシートの工夫の有効性について ・実態に適したワークシートを使うことは、考えや表現を促す上で有効である。
12.18	授 4年体育 阿達教諭 「マット運動」	○活動から考えをもつ場をつなぐ手立ての有効性について ・場面を切り替える場の工夫や図を生かした表現を取り入れることは、活動と考えをもつことをつなぐ上で有効である。
1.26	全体会⑨	○授業研究会の振り返り、成果と課題の共通理解
2.9	全体会⑩	○今後の研修の方向性の確認、研修のまとめ
3.9	全体会⑪	○来年度の計画検討

○資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.7	メンター研修1	メンター担当	情報交換、相談、授業支援の工夫
6.4	メンター研修2	メンター担当	情報交換、相談
6.9	メンタルヘルス研修	藤平医師	職場の環境作りについての講演・意見交流
6.25	救急法講習	利根沼田広域消防本部署員	心肺蘇生法研修
6.30	不審者対応訓練	林スクールサポーター	不審者への教師の対応研修
7.18	特別支援研修	松井アドバイザー	ケース会議の進め方についての講演・意見交流
9.10	メンター研修3	メンター担当	情報交換、相談
2.18	メンター研修4	メンター担当	情報交換、相談、次年度初めの学級経営について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	内藤麗子	教諭	本多志帆	スクールカウンセラー	阿左見康成
教頭	金子平子	〃	金子陽一	生活相談員	中澤直子
教諭	小野里純子	〃	阿達覚	学校支援員	北村恵美子
〃	井上初枝	〃	小田橋恵子	〃	真庭由喜枝
〃	登坂厚子	〃	佐藤美香	〃	横山利香
〃	星野美由紀	〃	片野佑美	初任研代替	今井美重子
〃	小川賢治	〃	吉本光輝	地域学校協働活動推進員	遠藤由美子
〃	戸部栄子	〃	佐藤直樹	用務員	霜下猛子
〃	土井智穂	養護教諭	佐藤敦子	スクールサポートスタッフ	石井朴希
〃	外山明子	事務長代理	中山よし子		
〃	栗原智恵	事務主事	山田徳子		

沼田北小学校

所在地 〒378-0056 沼田市高橋場町4898
電話番号 0278-24-4123 FAX 22-0782
校長名 小倉 正人

I 学校の経営

1 学校教育目標

- (1) 基本目標 自ら学び、豊かな心とたくましい実践力を備えた児童の育成を目指す
- (2) 具体目標 〈目指す児童像〉 ○よくまなぶ子 ○心ゆたかな子 ○たくましい子
スローガン『学び合い、認め合い、助け合う北小』

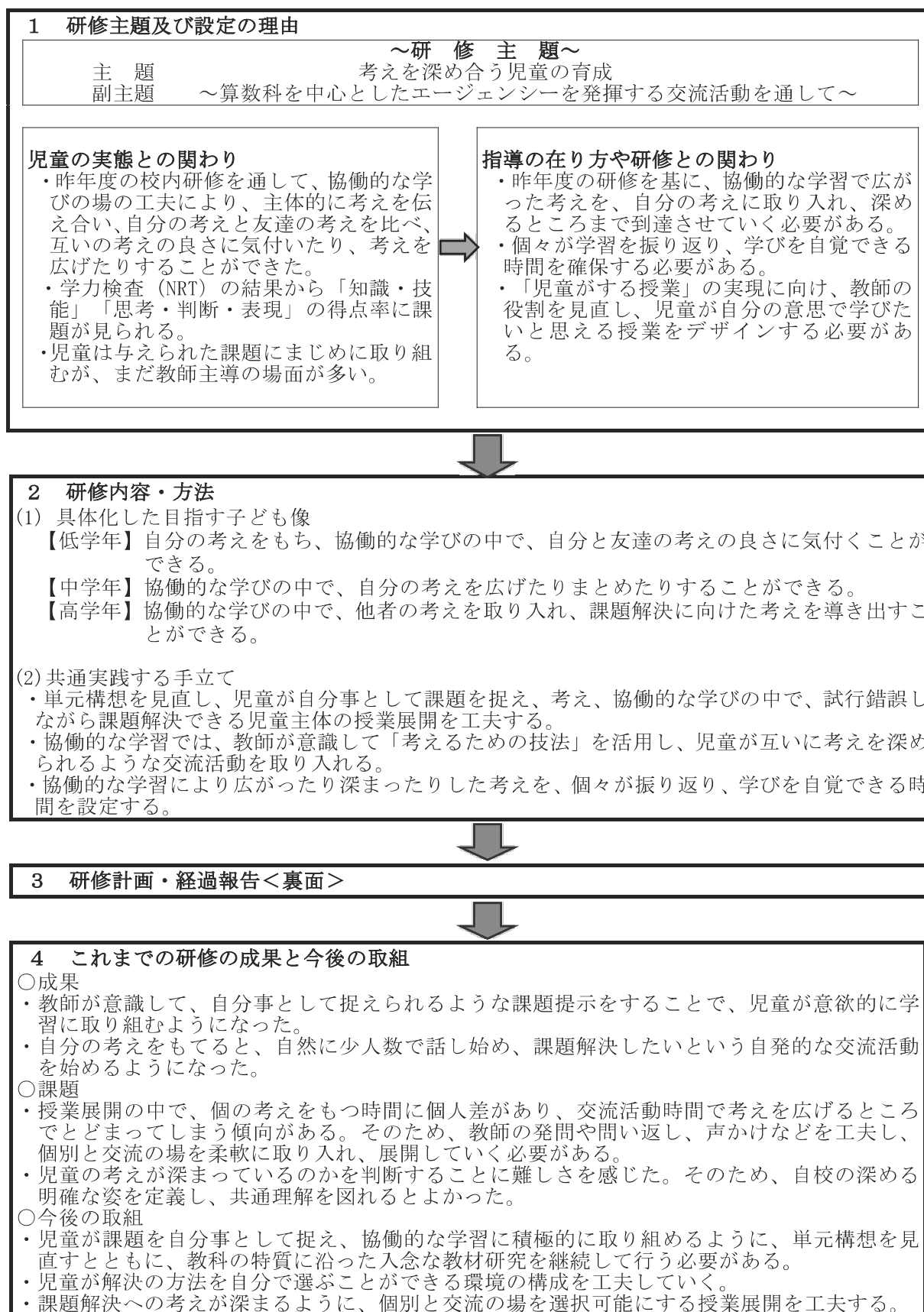
2 経営の方針

- (1) 全教職員が主体的に学校経営に参画する体制の強化<高め合うチーム北小>
- (2) 非認知能力育成（ぬまたし力）を基盤とした教育活動の充実と互いを認め合う学級経営の推進
- (3) 安心・安全な学習環境の整備と安全教育の推進
- (4) 「よくまなぶ子」を育てるための、子どもを中心にすえた授業の展開
- (5) 「心ゆたかな子」を育てるための、道徳教育を核とした教育活動・体験活動の推進
- (6) 「たくましい子」を育てるための、体育的活動と健康教育の推進
- (7) 家庭・地域・隣接小中学校との連携協力の強化<コミュニティ・スクールの推進と統合に向けた準備>

3 本年度の重点施策

- (1) 「高め合うチーム北小」に向けて
 - ①経営方針の明確化と各主任・担当を中心とした組織的・計画的・継続的な取組
 - ②学校課題の共有とすべての教職員が互いに関わり合って子どもを育てる意識の向上
 - ③児童と向き合う時間の確保に向けた、業務改善・校務のスリム化の推進
- (2) 非認知能力育成を基盤とした教育活動の充実と互いを認め合う学級経営の推進
 - ①学習活動や行事のねらいを非認知能力の視点で整理・提案
 - ②自分も相手も大切にし、誰もが居場所のある温かな学級づくり
- (3) 安心・安全な学習環境の整備と安全教育の充実に向けて
 - ①危機管理マニュアルの活用・改善と計画的な危険予測・回避能力の育成【セイティ沼田】
 - ②児童一人一人の健康に関する情報（既往症、アレルギー等）の共有と適切な指導・支援
- (4) 「よくまなぶ子」の育成に向けて
 - ①児童の主体的な学びを引き出す、魅力ある課題の提示及び単元構想【わくわくスクール沼田】
 - ②協働的な学びを通して「児童がする授業」を意識した授業デザインの構築と実践
 - ③培う力を明確にした探究型授業の推進
- (5) 「心ゆたかな子」の育成に向けて
 - ①生徒指導の4つの視点を意識した、組織的な児童の自己指導能力の育成
 - ②いじめを許さない心を育てるための、子ども主体のいじめ防止活動の充実
 - ③「SOSの出し方・受け止め方」に関する教育の推進【児童の命を守り、育てる教育】
- (6) 「たくましい子」の育成に向けて
 - ①体力向上プランを核とした体力の向上と運動能力の育成
 - ②家庭と連携した身体と心の健康を自分で守るための学校保健、食育、教育相談の推進
 - ③児童の挑戦の下支えとなる心（やる気、勇気、粘り強さ等）と身体（体力）の育成
- (7) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力に向けて
 - ①地域学校協働活動推進員と連携した家庭や地域との協働による学校づくりの推進
 - ②生活科や虹の時間（総合的な学習の時間）等における地域教材、講師となる地域人材の発掘と活用
【ぬまた未来創造学】
 - ③3年後の学校統合に向けた、地域や隣接幼小中学校との連携強化【幼小中連携】

II 校内研修の推進



3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.11	研修①推 今年度の研修計画立案	○研修主題の吟味と研修計画の検討
4.16	研修②全 今年度の研修の方向性の確認	○昨年度の成果と課題の確認、 ・今年度の研修主題、副主題、目指す児童像の吟味
5.28	研修③全 目指す児童像の確認 一人一授業の計画作り	○目指す児童像、共通実践する手立ての吟味と、指導案作成形式の確認 ○授業改善プロジェクト動画視聴 ○B訪問の代表授業について
6.19	授一人一授業 1年1組 算数 小林 拓美 教諭	○「課題提示、協働的な学びの場の工夫」 ・教師によるゆさぶりの発問や友達同士教え合う交流活動により、自分の考えの正当性や根拠を考えさせることができた。
6.25	授一人一授業 2年1組 算数 荒木 麻弥 教諭	○「協働的な学びの工夫、学習の振り返りの視点」 ・グループ交流では、数の構成を多面的に捉えられるように声掛けしたことで、友達の意見に賛成したり付け足したりでき、活発な話し合いになった。
7.2	指導主事A訪問	・研究授業、授業研究会
7.18	A訪問の振り返り	○A訪問の反省 ○指導案形式の再確認と一人一授業の実施・検討会の進め方について
9.9	研修④全 B訪問指導案検討	○B訪問になぞらえた授業展開の流れの共通理解
9.17	研修⑤推 B訪問指導案検討	○B訪問授業学習指導案の検討 ・授業のねらい、展開、学習形態などの再検討を行った。
10.10	授一人一授業 6年1組 算数 深津 美帆 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・児童が自由にペアやグループで考えを伝え合うことで、今まで以上に課題解決に向かって主体的に交流活動を行うことができた。
10.20	研修⑥全 B訪問指導案検討、授業準備	○B訪問授業学習指導案の検討、最終確認 ・授業のねらい、学習形態工夫などの検討を行った。
10.23	授一人一授業 5年2組 理科 星野理恵子教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・グループでの話し合いでは、自然と進行役の児童が出てきて、意見を求めたりまとめたりすることができた。
10.27	授一人一授業 5年1組 算数 儘田 香織 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」(B訪問のプレ授業) ・交流場面で相手によく分かるように指でさして説明したり、相手のタブレットやノートをのぞき込んだりして詳しく伝え合い、自分の考えを深める姿が見られた。
10.31	授一人一授業 4年1組 算数 石田 真規 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・ICTの有効的な活用により、個々に面積の求め方の見通しをもち、画面を互に見合いながら意見共有をすることで、個々の考えを広げることができた。
11.4	授指導主事訪問 B 5年2組 算数 中村穂乃香教諭	○「課題提示、協働的な学びの場の工夫」 ・東京旅行で行った動物園を活用した教材を発案し、課題提示に活用することで、自力解決の意欲が高まった。 ・協働的な学びの場では、ICTやノートなど自分に合ったものを選択して、考えを可視化しながら伝え合うことでよりよい考えを導き出したり、課題解決につながりすることができた。
11.7	研修⑦全 B訪問の振り返り	・B訪問までの各教諭の一人一授業の取組、それを受けての当日の実践授業の成果と課題の確認を行った。
11.11	授一人一授業 3年1組 算数 角田 淑子 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・具体物の提示で意欲的に自力解決できた。意見共有の場面でも、自然に交流し合い自分の考えを広げることができた。
11.12	授一人一授業 1年2組 算数 河野 徳子 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・具体物を使った体験的な活動を取り入れることで、児童が主体的・対話的に取り組み、友達の考えの良さに気付くことができた。

11.25		授一人一授業 5年2組 音楽 白岩 良子 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・個々に考える場面で ICT を効果的に活用したことで、協働的な学びの場で、意見共有することができた。
11.27		授一人一授業 2年1組 算数 左近 匠己 教諭	○「課題提示、協働的な学びの場の工夫」 ・身近なボールを提示することで自分事として課題に取り組むことができた。意見交流後、全体共有の場面で ICT を活用し、自分と友達のかえの良さに気づくことができた。
12.1		授一人一授業 通級 自立活動 角田 泉 教諭	○「教師の働きかけ、進んで活動するための工夫」 ・児童に合わせた学習課題を提示し、その時の児童の取り組み方に合わせた声かけや学習内容の変更をすることで、主体的に学習に取り組めることができた。
12.1	研修⑧	来年度の研修の方向性	○研修の成果と課題、次年度の方向性について検討 ・冬期休業中の年間指導計画の朱書きについて
12.16		授一人一授業 6年1組 社会 星野 竹志 教諭	○「課題提示の工夫」 ・当時の生活場面を提示することで、明治の文明開化について考え、その時代の背景について意見交換することができた。
12.19		授一人一授業 3年2組 算数 大関 一久 教諭	○「協働的な学びの場の工夫」 ・自力解決の場面では十分な時間を確保したことで、互いの考えの相違に気付いた上で、自分の考えを広げることができた。
1月下旬		授一人一授業 なかよし 算数 上山 和真 教諭	○「進んで自力解決できるようにするための工夫」
1.26	研修⑨推	来年度の研修主題について	○研修主題、研修内容等の選定
2.2	研修⑩全	来年度の研修主題について	○研修主題、研修内容等の決定

5 資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.16	オ 学校安全に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法などについて
5.26	エ 学校保健に関する研修	養護教諭	・食物アレルギーの対応の仕方、エピペンの使い方、緊急車両の対応について
5.28	ア 授業改善に関する研修	学力向上Co	・学力向上の取組、学力検査分析
6.16	カ 特別支援教育に関する研修	anomira 北爪浩美先生	・講話 『行動や学習に困難さを抱える児童の理解と指導』について
7.18	ア 授業改善に関する研修	学校長	・非認知能力の育成について
夏季休業	ク その他の研修		・各自オンデマンド・セルフ研修受講
9.9	ア 授業改善に関する研修	学力向上Co.	・全国学調授業改善説明会参加
12.1	ア 授業改善に関する研修	学力向上Co	・学力向上の取組の進捗状況の確認
12.3	オ 学校安全に関する研修	スクールサポーター	・不審者対応実技研修
2.2	ア 授業改善に関する研修	学力向上Co	・学力検査結果考察による児童の実態把握と指導改善

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	小倉 正人	教諭	上山 和真	養護教諭	小林 真奈美
教頭	須藤 厚子	教諭	石田 真規	主任事務長代理	水落 美晴
教諭	角田 淑子	教諭	中村 穂乃香	用務員	田村 健司
教諭	白岩 良子	教諭	左近 匠己	事務補助	荒川 一之
教諭	深津 美帆	教諭	入澤 浩史	生活相談員	大竹 順子
教諭	小林 拓美	教諭	大関 一久	学習支援員	國井 みゆき
教諭	角田 泉	教諭	星野 竹志	学習支援員	原澤 智美
教諭	荒木 麻弥	教諭	星野 理恵子	学習支援員	近藤 白
教諭	河野 徳子	教諭	儘田 香織	A L T	ダーレン・カンボウ

升形小学校

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141番地
電話番号 0278-22-3107 FAX 22-0783
校長名 浅見 尚孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標

基本目標 夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成

- 具体目標
- 進んで学ぶ子 (自ら学び、よく考える子)
 - 思いやりのある子 (相手の気持ちを考え、仲良くできる子)
 - ねばり強い子 (心身共に健康で、最後までがんばる子)

2 経営方針

《目指す学校像》 「 学び合い 高め合い 創り出す 」

子どもが輝き、今日が楽しく、明日が待たれる学校

《目指す教職員像》 「共に学び続け成長できる教職員」

- やる気と情熱をもち、子どものよさを伸ばす教職員
- 常に専門性の向上を目指し、学び続ける教職員
- 児童、保護者、地域を大切にし、信頼される教職員

《学校経営の方針》

- 全教職員協働の下、主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化【創造・協働・意思疎通】
- 「進んで学ぶ子」を育てるための、授業を核とした探究的な学習活動の充実
- 「思いやりのある子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進
- 「ねばり強い子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進
- 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 地域とともにある学校づくりを目指した、家庭や地域との連携・協働

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・「学び合い 高め合い 創り出す」を合い言葉に、教職員の協働体制による主体的・組織的に取り組む温かく活気に満ちた学校・学級経営の充実を図る。
- ・報告・連絡・相談・記録を徹底し、お互いに声を掛け合い、日常的に情報交換ができる明るく風通しのよい職場をつくる。
- ・「群馬県教員育成指標」を基に人事評価制度や各種研修を活用してキャリア段階に応じた職能成長を図る。

(2) 確かな学力の育成【2025 学力向上対策】

- ・培う力を明確にした探究的な学習を実践し、児童が自ら学ぶ力を育成する。
- ・指導のねらいを踏まえて1人1台端末等のICT環境を効果的に活用し、「分かる・できる・学び合う」授業づくりに努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ・校内研修や学校内外の授業参観などを通して、子ども同士が協働的に取り組み、対話と交流を生み出す授業を実現する。

(3) 豊かな人間性の育成

- ・学校行事や異学年交流において児童が活躍する場面を設定し、自己有用感を高めるとともに、自他のよさを認め合う人間関係を形成する。
- ・「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けて授業を工夫・改善するとともに、道徳科の授業を要とし教育活動全体を通して道徳教育を推進する。【道徳教育】
- ・人権教育と生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実(「SOSの出し方に関する教育」)により、いじめや差別を許さない心を育てる。【児童生徒の生命を守り、育てる教育】
- ・生徒指導実践上の4つの視点に立ち、不登校の未然防止や不登校傾向児童への適切な支援体制を構築する。

(4) 健やかな体の育成

- ・子どもの心身の健康の保持増進を図るために健康教育を計画的に推進するとともに感染症対策を徹底する。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行、「元気ウィーク」「升形ますます元気の日」を生かし、家庭と連携して基本的な生活習慣を確立する。
- ・体力向上プランを活用し、運動の楽しさと喜びを味わわせる教科体育や体力づくりを実践する。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通理解する。
- ・保護者との情報共有や専門家・関係機関との連携に努め、教育支援及び就学指導の効果を高める。
- ・教職員の専門性を高め、すべての子どもが参加し活躍できる授業を目指し、ユニバーサルデザインと合理的配慮を意識した授業づくりに努める。

(6) 地域とともにある学校づくり

- ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)と地域学校協働活動を一体的に推進し、家庭・地域との協働体制による学校づくりの実現を図る。
- ・総合的な学習の時間を中心として、明確なねらいのもとに、地域の人的・物的資源(人・もの・こと)を積極的に活用し、地域学習や体験活動を充実させる。【「ぬまた未来創造学」「わくわくスクール沼田」】
- ・学びの連続性を意識し、隣接する幼稚園、中学校、高校との交流や連携を進め、異年齢集団との教育活動を充実させる。【幼小中連携】

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 「自ら考え表現できる児童の育成」

副主題 各教科等における児童の考えを深めるための教師の支援や働きかけの工夫を通して

子どもの実態との関わり

- ・既習事項の振り返りや思考を助けるカードの提示、表現方法の提示によって、課題解決への見通しや自分の考えをもつことはできるが、考えを深めたりすることは難しい。
- ・ICTを活用することで、互いの考えを共有・比較しながら、対話的な活動を行い、考えをまとめたり表現したりすることができるようになったが、自分の考えを深めたり、深まった考えについて表現したりすることが十分ではない。
- ・個→集団→個、個→少数→集団で対話的な活動を挟むことで、児童が段階的に考えを広げることができているが深めることは難しい。

指導の在り方や研修との関わり

- ・集団解決の場での「教師－児童」の一问一答式のやりとりではなく、教師の切り返しやつなぎなどの働きかけをさらに工夫していくことにより、考えを広げたり深めたりする集団解決の充実を図る必要がある。
- ・深まった考えについて表現する場の設定や考えの深まりを児童が自覚できるような振り返りの工夫が必要である。
- ・思考を可視化することで考えを比較・検討しやすくし、児童の考えを広げたり深めたりするため、ICTを効果的に使い、目的に応じた思考ツールを教師が選択し活用する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

課題解決に向けて、自分の考えをもち、分かるように伝えることができる児童

【低学年】課題解決に向けて、人の話をよく聞き、自分の考えを図や具体物などを用いながら表現することができる児童

【中学年】解決に向けて、友達と自分の考えを比べたり共感したりして表現することができる児童

【高学年】課題解決に向けて、友達と対話しながら自分の考えを持ち、筋道を立てて表現することができる児童

(2) 共通実践する手立て

- ・自力解決の場において、児童がどのような考えをもつかを把握した上で、課題解決の見通しをもたせるとともに、目的などに応じた表現の方法を提示する。
- ・集団解決の場において、自分の考えを互いに表現し合えるような対話や話し合いなどの対話的な活動を取り入れ、児童がより考えを深めるための教師の働きかけや問い返し、支援の工夫をする。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・各教科等における一授業を行ったことで、教科特有の課題や活動に応じた手立てを講じることができた。児童にとって必要感や現実味のある課題設定、思考を可視化し深めるための板書、自分の考えを全員がもてるようにするためのワークシートやヒントカードの提示、児童の考えを引き出すための役割演技や問い返し、深い学びを自覚するための振り返りの工夫により、児童が自分の考えを表現し伝えられるようになってきた。

○課題

- ・児童同士の意見交流では、相手の思考に気を配り相互理解をする「聞く」はできているが、相手の意見を受け入れるだけの状態になっている。お互いの立場や意見の違いを理解することで、より深い学びにするために「聴く」「訊く」をできるような発問や揺さぶりの研鑽が必要である。

○今後の取組

- ・対話と交流をより充実させ、考えを深めるために、教師が目指す児童の姿をより明確にする。目指す姿に近づくために必要な問い返しや働きかけを日々の授業で行っていく。
- ・問い返しや揺さぶりをできるようにするために、児童の実態を把握し、児童の考えを生かした様々な授業展開に適切できるようより一層の教材研究を心がける。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.21	研修主題・内容・方法についての検討	・研修主題・研修内容や方法について共通理解を図り、成果と課題を積み上げていく。
5.12	研修内容・計画の検討	○授業実践の進め方について ・低学年、高学年ブロックごとに計画的に研究授業や授業研究会を行い、実践を積み重ねていく。
6.6	<指導主事訪問 A> 研修の意義・進め方の理解	○研修の内容・方向性について ・研修の方向性について助言を受けた。手立てを明確にして実践を行っていく。
7.7	3年理科 「ゴムのはたらき」 授 兵頭教諭	○実験を通して課題達成に向けた話し合いの工夫 ・児童がやってみたいと思う単元の課題設定により、実験における話し合いが活発に行われるために有効だった。
7.7	なかよし2組自立活動 「七夕会をひらこう」 授 原教諭	○児童の実態に合った自立活動の工夫 ・児童の自己有用感を高める温かな声掛けや認め合える雰囲気があり、児童が安心して取り組めた。 ・実態に応じた可視化された板書や教材準備が有効だった。
7.8	1年音楽 「はくのにのってリズムをうとう」 授 上原教諭	○振り返りの際の支援や働きかけの工夫 ・ねらいやめあてに戻れるキーワードの提示が深い学びのふり返りに効果的であった。 ・振り返りの型となるような「キーワードの提示」「そう答えた理由」を示したことで児童は積極的に振り返りができた。
7.15	1年道徳 「ひっじかいのこども」 授 岡村教諭	○すべての児童が進んで自分の考えを表現するための工夫 ・児童の発達段階に合ったワークシートを取り入れたことで児童全員が自分の考えを書くことができた。また、役割演技を行ったことで児童の本音を引き出した。 ・少数意見を丁寧に取り上げ、問い返しを細かく行うことで、児童の意見が広がった。
9.2	5年外国語 「Let's go to the zoo.」 授 亀井教諭	○相手意識のある課題設定の工夫 ・単元のゴールへの見通しを持たせ、必要感のある課題に取り組ませたことは児童が伝えたいという意欲を高めるのに有効だった。 ・録音をするためには ICT の活用方法にさらなる検討が必要。
9.10	3年道徳 「やっぱりやめよう」 授 青木教諭	○考えを深めるための交流の工夫 ・児童の思考を深めるための、考えや思考の流れがまとめられた丁寧な板書が効果的であった。 ・自分の考えを自由に伝えることで考えが広まった。
10.2	なかよし1組自立活動 「ルールを決めなかよく遊ぼう」 授 高橋教諭	○現実味のある課題設定と自立活動の工夫 ・単元の課題が児童にとって現実味があり、児童は活動に意欲的に取り組めた。 ・実態に応じた生活スキルを身に付けるための支援が有効だった。
10.9	4年算数 「いろいろな式」 授 生方教諭	○自分の考えを表現するための ICT 活用の工夫 ・課題に適した ICT 活用が有効だった。またヒントカードを提示したことで一人一人が考えをもって交流ができた。 ・他者説明を繰り返すことで考えを深めることができた。
10.21	5年総合 「お米、再発見」 授 土屋教諭	○児童が考えを深めるための ICT 活用や働きかけの工夫 ・追求ワークシートが効果的であった。米作りを手段として、ふるさと沼田の魅力に近づける課題設定と内容だった。 ・より深めるためには、真田用水や雪解けなどのキーワードを提示することも有効ではないか。
9.3	6年体育 「マット運動」 奈良教諭 指 高学年ブロック	・授業構想・共通実践する手立てとの関連 ・集団解決の場における支援の方法について検討
9.22	指 全体会	
10.9	指 全体会	
10.20	指 全体会	
10.29	<指導主事訪問 B> 授 奈良教諭	○自分の考えを表現し合えるための働きかけの工夫 ・比較し、伝えるための基準となるヒントカードの活用が有効であり、視点を持たせたことで、学習者同士の伝え合いや対話が充実したものとなった。 ・やってみたいと思わせる課題設定であり、取り組む技が仲間と同じであるために、必要感のある課題であった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを活用した振り返りにより、単元の課題に向けて見通しを持ちやすく、児童ができたことを実感し、積み上げることができる工夫が有効であった。 
10.31	2年算数 「かけ算」 授 木村教諭	<ul style="list-style-type: none"> ○必要感のある課題設定の工夫 ・教師と児童でやり取りしながらかけ算の便利さに気づかせることで、学習の意欲に繋がった。 ・簡単に結論を出そうとする児童への教師からの働きかけや声かけが有効だった。
11.4	なかよし3組自立活動 「なかよし3組ハッピー大作戦」 授 武井先生	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合った自立活動の工夫 ・見通しを持たせるための視覚的に捉えやすい掲示物やICTの活用があった。 ・個に応じた発表にしたため全員が自分の考えを発表できた。
1.26 2.24 3.2	授業実践の成果と課題 学力検査結果考察 来年度の研修計画検討	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果と課題の検討 ・学力検査結果考察による実態把握と指導改善 ・来年度の研修主題、副主題の検討

5 資質向上研修

月日	研修計画【内容】		実施内容
	区分	講師	
7.14	エ 学校保健	養護教諭 加藤先生	・食物アレルギーの対応の仕方、エピペンの使用演習
7.16	オ 学校安全	消防署員	・心肺蘇生法について、AED 講習
11.14	イ 生徒指導	生徒指導主任 青木先生	・長期休み前の生徒指導、自殺予防に関するDVD視聴
12.15	ア 授業改善	教育DX 小松峻先生 (利根教育事務所)	・効果的なICTの活用について

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	浅見 尚孝	教諭	奈良 雅裕	兼務(家庭科)	本田 祐子
教頭	齋藤 恵美	教諭	高橋 葵	非常勤(初任研後補)	三浦 武夫
教諭	上原 純子	教諭	原 晃子	非常勤(音楽)	高橋 暁美
教諭	岡村 美保	教諭	武井 紀恵	スクールカウンセラー	廣田 莉奈
教諭	木村 壮志	教諭	倉嶋 楓花	ALT	ウオン・ティム
教諭	青木 和成	養護教諭	加藤 俊子	生活相談員	大竹 ゆかり
教諭	生方 成海	事務主事	星野 久実子	学校教育支援員	今井 由香
教諭	亀井 枝里子	長期研修員(JSV)	角田 順子	学校教育支援員	中澤 かな子
教諭	土屋 成史	兼務(理科)	小野 修一	用務員	熊澤 正幸